

特集
1

第5次総合計画基本構想案

小さくて
キラリと輝く
まちづくり

来年度からの10年間のまちづくりの指針となる第5次総合計画の基本構想が案としてまとまりました。構想案は、社会経済情勢や、町民の意識・ニーズをアンケートなどにより十分に分析した上で作成し、専門家や住民の代表を交えた審議会においてこれまでに4回、審議いただきました。今月には、パブリックコメントを実施し、広く住民の皆さまのご意見をお聞きすることとしています。今月号の特集では、基本構想案の概要をご紹介します。

にぎわいを

取り戻した10年

本町では、平成22年に策定した「豊山町第4次総合計画」に基づき、「小さくてキラリと輝くまちづくり」を基本理念として、町の将来像「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」の実現を目指してまちづくりに取り組んできました。

計画期間の初期には民間定期航空路線全面撤退の危機にさえ直面した県営名古屋空港の旅客数は、昨年度年間90万人を超え、空港周辺地区には国産初のジェット旅客機の最終組立工場が完成、見学施設も整備されました。あいち航空ミュージアムもオープンし、本町は航空機関連施設が集積する「ヒコキのまち」として輝き、にぎわいを実現しています。

暮らし豊かな アーバンビレッジ



基本理念

小さくてキラリと輝くまちづくり

豊山町は県内で最も面積の小さな自治体です。しかし、この小さな町の中には、穏やかに暮らすことのできる住宅地や生活関連施設などがコンパクトにまとまった豊かな生活空間が広がっています。

また、地域の行事や活動などを通じて、住民同士、住民と行政がお互いに顔の見える関係をつくりやすく、地域の密接なつながりも育まれています。

そして、県営名古屋空港や名古屋中央卸売市場北部市場という特徴的な施設が立地しています。空港周辺には、国産初のジェット旅客機

まちの将来像

平成22（2010）年に策定した第4次総合計画では、まちの将来像を「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」とし、まちづくりを推進してきました。

都市の利便さを持ちつつも、大きな空が広がり緑も残る穏やかな環境の中、この10年で、町の人口は着実に増加しています。県営名古屋空

の最終組立工場があり、我が国の航空機産業の核として重要な役割を担っています。

こうした、小さい町の特徴や利点を活かしながら、本町ならではの魅力、特徴にさらなる磨きをかけ、住民と行政、住民と住民、それぞれが交流、協働することによって、誰にとっても住んでいることが心地よく感じられ、住民一人ひとりが輝いていられるまちづくりを進めていく必要があります。

こうしたまちづくりを実現していくために、住民が「誇り」を持てる町、「豊かさ」を実感できる町、小さいからこそキラリと光ることのできる「小さくてキラリと輝く町」を築き上げていくことをまちづくりの基本理念とします。

港の利用者数も倍増し、あいち航空ミュージアムといった新たな集客施設も完成し、にぎわいを実感できる町となりました。

第5次総合計画では、これまでの取組を発展・深化させ、住民一人ひとりが健康で安心して暮らし、生涯を通じて生きがいを持って一層いきいきと活躍できるまち「一人ひとりが輝く暮らし豊かなアーバンビレッジ」を目指します。